

母塾

VOI-35 2020・2・28

新小岩幼稚園・未就園児クラス

illustrated by kurumi

『ほめ言葉も安売りしない』 猪之鼻 晴子

子どもに長い小言を言ってもまったく効果がありません。
そして褒めることも実は難しいことです。

今は「褒めて伸ばしましょう」ということがよく言われます。

幼稚園の顧問として教育心理学の第一人者・滝沢武久先生がいらしていました。

先生は「ひとつ叱ったら、ふたつ褒めてあげてください」とよくおっしゃいました。

ほとんどのママがひとつ叱ったら、さらに二つ三つ付け足してしかってしまうので、
ため息をついて聞いていました。「褒めることって何かあるかな」と。

まず子どもを褒めるには、子どもの行動をよく見ていないとみつきりません。

叱ることは否応なく目につきます。長男を「さて褒めなきゃ」とじっと見ていましたが、

注意したいことが次々と湧いてきてしまいました。長男は千分の1も褒めていませんでした。

そして6番目の5才のロクにはというと、ただ可愛さだけで甘やかしています。

注意はほとんどなく、一日中褒めてばかりです。「かわいいね」「えらいね」「すごいね」の連発です。

「かわいいね」と言っても「そう?」「えらいね」と言っても「なにが?」と答えるようになりました。

ママのほめ言葉が安売りしすぎて、まったくありがたくないのです。

「ママ、見て!こんな絵描けたよ。」と言ってもチラッと見ただけで「すごいね」と言うので

「ママ、これ何描いたかわかったの?」と聞き返されました。

無意識に言葉を出しているのです。子どもは「ママはいいかげんだな」と気づいています。

誉めるときは ①ちゃんと見て ②その場で ③本当の気持ちを言うことが大切です。

褒めなきゃと、無理して心にもないことを言ったり、適当なことばを言われても値打が下がります。

さて、ほとんど褒めることなく育った長男も25才になりました。

「作ってくれた料理の中で今日のスープが一番おいしいね」と言ったらまんざらでもなさそうです。

5才には「お手紙の字、ありがとうの「あ」って難しいのに何回も書けたね」と言うと

「「ま」も「る」も むずかしいけど、書いてみる」と書き直しています。

叱るも褒めるも実はどちらも同じく子どもに意識を向けること。

言葉を安売りしないで、きちんと届けることなのですね。



harukoinohana1717gmail.com